

令和2（2020）年度 第1回柏崎市立図書館協議会 議事録

日 時 令和2（2020）年6月17日(水) 午後1時30分～午後3時30分

会 場 柏崎市立図書館 2階 第1,2会議室

出席委員 三井田会長、田村副会長、本間委員、松田委員、阿部委員、関原委員、野村委員、丸山委員  
(8人)

欠席委員 なし

事務局 飯田教育部長、鈴木館長、飯田館長代理、小林係長、大木係長、田村主任

1 開会あいさつ(教育部長)

部 長 この協議会は、昭和26年から長い歴史を有しており、教育委員会の附属機関として図書館運営に関して委員の皆様から貴重な意見をいただく場となっている。今年度は、昨年度策定された第二次子ども読書活動推進計画の初年度であり、本計画が実り多いものとなるよう、委員の皆様から進行管理をしていただく中で意見をいただきたい。また、来年は開館25周年を迎える。引き続き、市民の皆様から愛され、来館者にとって魅力あふれる施設となるよう努めたい。今後ともお気づきの点があれば遠慮なく聞かせていただきたい。

2 図書館協議会について

館 長 図書館協議会は、図書館法に沿った設置条例や運営規定に基づき、図書館運営に関して協議いただくことを目的として設置されている。委員の任期は2年、人数は8名で、学識経験者、学校教育、社会教育、家庭教育、読書活動団体、公募の方で会議は例年、年3回の開催予定。会議の内容としては、子ども読書活動推進計画の施策の進行状況や図書館の運営について協議いただくほか、図書館の開催行事や事業の報告について意見をいただく。

3 自己紹介 (各自自己紹介)

4 役員選出

図書館協議会運営規定第2条により委員のうちから会長および副会長1名を選出する。

(委員の互選)

会長：三井田委員

副会長：田村委員 を選出

5 新役員あいさつ (会長、副会長)

(部長退席)

6 報告事項 (以降会長が進行)

会 長 (1)～(3)まで続けて事務局の説明を求める。

(1) 令和2（2020）年4月1日付け図書館人事異動及び今年度の職務分担について（資料2）

館 長 現在30人のスタッフで運営している。図書館は、カウンター業務があり、土曜日曜も交代勤務で開館している。よって、どの業務も分かる様に連携しながら進めている。

(2) 令和元（2019）年度事業報告について（資料3）

館 長 1 子どもたちの学習活動や読書習慣付けへの支援では、学校との連携・支援として、学

校読書支援員による小学校の学校図書館資料整備・読書活動支援、移動図書館、貸出文庫、ボランティアによる読み聞かせ、図書館見学・職場体験学習の受入れ等を行った。

乳幼児・親子向け読書活動の推進は、絵本を楽しむ会、てんとうむしの会等のおはなしの会を実施している。

読み聞かせボランティア育成・支援は、ボランティアの方々と一緒に活動することが多いことから、ボランティアの皆さんの参考となるような、互いのスキルを高め合うような研修等を行った。

ブックスタート事業は、4か月児健診の際に絵本を2冊プレゼントして家庭での読み聞かせのきっかけづくりになった。

- 2 課題解決型図書館を目指した資料整備及び資料調査相談は、レファレンスとして、様々な調査・相談に応じた。また、時代のニーズに合った社会問題関連書等の整備を行った。
- 3 利用者への資料・情報提供については、国立国会図書館の資料の閲覧や新潟日報・柏崎日報の記事・情報等を検索できるようになっている。また、ビジネス支援コーナーを新たに設置し、ビジネスに役立つ資料を一か所にまとめてより活用しやすくした。
- 4 学校教育又は社会教育団体等の視聴覚教材・機器の貸出の状況は資料のとおり。
- 5 郷土資料等の収集・整理・保存及びデジタル化については、引き続き郷土資料の収集とそれを整理、保存するためのデジタル化に取り組んだ。昨年度は、主に古文書の目録作成ということで大島家の資料1,400件の目録を郷土史研究会と協力して作成した。
- 6 蔵書点検は、今年の2月12日から26日まで休館して点検をした。点検数は303,761点となっている。
- 7 情報発信とサービスの向上については、以前からソフィアだよりや図書館ホームページで情報発信をしてきたが、昨年度は、市全体のホームページのリニューアルに合わせて図書館ホームページもリニューアルした。パソコンとスマートフォンの画面を統一するなど、使いやすい改良を加えた。
- 8 展示会、読書イベント・講座等の開催については、資料のとおり年間を通じて取り組んだ。

### (3) 令和元(2019)年度利用者統計(資料4)

館長 所蔵資料は、一般図書から視聴覚資料まで全て含めて329,569点。貸出利用登録者数は38,369人で、昨年度より若干減っている。開館日数は335日。入館者数は327,202人で、2月末からの新型コロナウイルスによる減と、夏の入館者数が減ったという現象があり、昨年度に比べ約2万人の減となった。貸出者数については110,224人で、こちらも減っている。ただし、貸出冊数は361,399点と、昨年度に比べて約1万点多くなっている状況である。貸出文庫は、90団体の利用がある。施設の利用状況については、展示ホールを利用する団体も少なくなってきたので、新たな利用を増やしていきたい。

会長 事務局からの説明について、意見や質問があったらお願いしたい。

委員 特になし。

## 7 協議事項

会長 7協議事項に移る。事務局からの説明をお願いしたい。

### (1) 令和2(2020)年度図書館事業計画について(資料5)

館長

一部イベント行事について、新型コロナウイルスの対応により計画通りできなくなったものも数件あり、今後も状況に応じて変化があると思うが、対策をして可能なものについてはできるだけ実施したいと考えている。

まず、運営基本方針の1つ目、生涯学習・文化・情報施設として、多様化・高度化する市民ニーズに応え、課題解決を支援する利用しやすい「役に立つ図書館」を目指して図書館サービスの向上に努めていきたい。2つ目、第二次子ども読書活動推進計画に沿って子どもの読書活動と読書環境整備を推進する。3つ目、柏崎市の歴史を将来に残し伝えていくため、地域資料の収集・整理・保存を行い、デジタル化と情報発信を推進する。

これらの基本方針に沿って、重点事項を5つ挙げている。まずは、今年度から始まる第二次子ども読書活動推進計画の施策展開に取り組む。2つ目、絵本で子育て及び子ども読書活動推進の導入としてブックスタート事業の充実を進める。3つ目、若者を中心とした新たな利用者発掘を目指して、様々な課題解決を目的とした資料提供を行う。4つ目、資料の特設ミニ展示や読書推進イベント・講座等に取り組む。5つ目、読書や文化活動を行う環境整備に取り組む。

主な事業として、学校との連携・支援では、学校読書支援員が1人増員され今年度からは5人で20校を巡回することになった。これにより、子どもたちへの読書支援の充実度が高まると考えている。

未就学児の読書活動の推進では、4か月児健診のブックスタートで絵本を2冊プレゼントするところから始まり、家庭での読書推進支援を行いたいと思っている。まずは、幼いころに家族と一緒に本を読む習慣づくりができるよう取組を推進したい。

ボランティアの育成・支援については、現在たくさんのボランティアの方と一緒に事業を行っているので、お互いにスキルを高め合うために引き続き取り組んでいきたい。

課題解決支援事業の実施では、身近な健康づくりや趣味、ビジネス等様々な分野に対して、市民が抱える様々な課題を解決するための資料提供の支援をしたい。

郷土資料等の収集・整理・保存については、作業に長い期間が必要であり、コツコツと進めたい。

情報発信とサービスの向上については、ソフィアだよりやホームページ等を活用して更なる情報発信を継続する。

展示会・講座等の開催について、主なものでは、絵本・こどもフェスタ実行委員会主催で絵本ライブ等の開催を予定している。また、図書館資料を用いて真貝新一さんの写真展開催を予定している。

最後に、施設整備について、当館は開館から25年が経とうとしている。いろいろなところに傷みが出てきており、特に空調設備の入替等が必要になっている。今年度は、冷却塔の部品入替修理やパッケージエアコンの入替修理を予定している。

会長

質問や意見をお願いしたい。

委員

学校との連携・支援について、学校読書支援員には図書の修理や受入、図書室の環境整備等、大変よくしていただいている。大型絵本の読み聞かせ等は、ソーシャルディスタンスを保ちながら絵本の世界に引き込まれるので、本当にありがたい。支援員が4人から5人に増えたということだが、今後も引き続き支援をお願いしたい。

館長

今年度から増員され、秋から独りで学校へ出向けるよう研修中である。

委員

いつも絵本講座等で午前中に利用することが多いが、会議室のエアコンが効くのが午後位になるので、空調が新しくなると嬉しい。

子ども読書活動推進計画について、次の世代を担う子どもたちのために計画を立てて施策を実行していくのは、そうでなくてはいけないし良いことだが、私はいま大人に絵本を

広げる活動をしている。東京都の健康長寿医療センター研究所というところで高齢者に絵本が心身ともに良い影響があるという研究をされていて、いまは高齢者がどんどん増えている状況もあるため、子どもたちは大事だが、その隙間にちょっと高齢者にも目を向けてもらえる何かができたらよい。

館長 貴重な意見をありがたい。

会長 ほかに意見は。

委員 個人的には、ミニ展示が好きで、古い物の展示を見るのも好きなので、柏崎でも古い資料の現物を見る機会があるとよい。

館長 当館も最近、特設展示やミニ展示に力を入れていて、歴史に関するものや旬の話題等を取り入れながら 1~2 か月ずつ展示を行っている。現在、北原保雄記念文庫を設置するので、その前にフロアでの展示をしている。先日まではオリンピック出場の富澤選手や水球選手のおすすめの本を展示していた。今後も意見を参考にしながら、特設展示に力を入れていきたい。

会長 それでは、今年度の事業計画について、承認することで良いか。

委員 はい。

会長 次に、柏崎市子ども読書活動推進計画の実施報告について事務局の説明をお願いしたい。

事務局 事業実施報告の前に、計画の概要をご説明する。子どもの読書活動を社会全体で支援するため平成 13 年 12 月に施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、柏崎市では平成 27 年 3 月に「柏崎市子ども読書活動推進計画（かしわざき子ども読書プラン）」を策定した。平成 27 年 4 月から平成 32 年 3 月までの 5 年計画として策定し、取り組んできた。計画の対象は、おおむね 18 歳までの子どもであるが、保護者をはじめ読書ボランティアや読書に関わる全ての市民が対象となる。子どもたちが読書に親しむことにより、言葉や文字を学び、豊かな想像力、表現力、感性を育み、生きる力や健やかな成長につなげることを目的としていて、読書の習慣の形成、読書環境の整備を継続して推進していくことを策定方針としている。第一次計画は、10 の施策と広報で構成されており、これからその 10 の施策に対する実績を報告する。

子育て支援課、保育課、教育総務課、学校教育課、文化・生涯学習課、図書館の 6 つの課を柏崎読書プラン推進委員として、情報交換や協議、連携を行ってきた。

子育て支援課は、主に児童クラブで絵本の読み聞かせや、おはなし会のチラシの配布、図書購入、貸出文庫の利用などを行った。

保育課は、幼稚園や保育園、併設の子育て支援室、元気館のジャングルキッズなど様々なところで読み聞かせ、イベント、研修会などを行った。

教育総務課は、小中学校に図書整備の予算配当と執行、学校図書管理システムの導入についての検討を行った。

教育センターを含む学校教育課は、「学校教育実践上の努力点」の図書館教育について、読書の習慣化を重点項目とし、子ども司書養成講座の実施や学校読書支援員と連携した活動がスムーズに行えるよう配慮がされた。また、読書習慣の定着に向けて読書手帳の使い方学校に周知し、各学校で取組が行われた。教育センターでは、読書ボランティアや学校図書館教育担当者向けの講座を開催した。

文化・生涯学習課は、絵本で子育てのキャンペーンポスターの掲示や広報などをして周知を行った。

図書館は、絵本で子育てのキャンペーンを展開し、ロゴを作成して広報に使用したり、絵本イベントや読み聞かせ、読みたい本のリスト作成、図書の購入、読書ボランティアの研修をしたりと幅広い観点から取組を行った。学校読書支援員も市内全小学校を巡

回支援することができた。

資料 6-2 は、5 か年の実施内容に対する評価、課題を記載した。

「絵本で子育てキャンペーン」の普及は、「絵本で子育て」ロゴを作成し、家庭での読み聞かせの充実を図るため、読み聞かせ講座、絵本イベント、さまざまな場面で保護者に読み聞かせの効果などの啓発活動をした。市の広報、ホームページ、SNS 等を通じて行うことができた。多くの親子が参加し、絵本で子育ての良さに触れるきっかけづくりとなった。

子育て支援室や子育て世代包括支援センターなど地域も含めて様々な場面での読み聞かせ等を展開することができた。特に、平成 30 年度からブックスタート事業を再開することができたことが大きな成果である。ただ絵本を手渡すだけでなく、ボランティアの方が話しながら手渡す中で目的を伝えることができた。課題としては、読み聞かせを週 3 回以上行っている保護者が 4 割と、5 年前の平成 26 年調査時から変わりがなく、これをどのように高めていくかが課題であり、第二次計画の中でも取り組んでいく予定である。保護者だけではなく、祖父母の皆様などいろいろな方から協力いただける様周知していきたい。

「家庭読書（家読）」の普及・定着は、ブックスタート事業の開始に併せて、その次、更にその次の年代向けのリストを作成した。家庭での読み聞かせや読書が続くよう、様々な年代に対してのリスト作りや紹介をしてきた。学校においては、朝読書に取り組んでいる学校が増えた。課題は、学年によっては定着せず継続的なものにならない、その理由としては、どのような本を読みたいのか等の分析がまだ取組み不足であると考えている。

児童図書の整備と利用促進については、継続的な図書購入をすることができた。移動図書館、貸出文庫、団体貸出など様々な方法により、子どもたちが本に触れる機会を得ることができた。また、新規事業として子ども司書養成講座を実施し、学校の図書委員の児童がリーダーとなり読書推進をするという方法に取り組んだ。こちらも、学校図書のさらなる充実を図るため子どもたちがどのような本を読みたいのか分析することが課題となっている。

読書ボランティアの養成、研修、紹介・仲介及び活用については、この 5 年間で読み聞かせボランティアの人数も増え、たくさんの研修も重ねてきた。非常に幅広い皆様からの参加があり、その活動は、図書館だけでなく学校や地域に広がり、ブックスタートボランティアへも広がった。課題としては、横の連携、ボランティア同士のつながりを持って幅広い情報交換や連携ができるきっかけづくりをしていかなければならないということで、第二次計画でも継続としている。

読書関係職員研修の充実については、教育センターで読書関係職員の研修をしてきており、引き続き今年度以降も予定をしている。なかなか学校図書館を専門とする講師が見つからないことが課題である。

読書手帳の作成、配布及び活用促進については、新規事業で読書手帳「かしわざきし よむっ子ノート」を作成した。さらなる活用方法について模索していきたい。

学校図書館管理システムの導入については、現在、学校図書館では、ほとんどが表計算ソフトで蔵書を管理している。導入の是非など検討してきたところであるが、費用対効果や学校規模など、なかなか簡単に進むことができず現在に至っている。第二次プランでは、導入について引き続き検討したい。

学校図書室担当職員（学校司書等）の配置については、学校読書支援員が小学校 20 校を巡回して環境整備や児童に対する読書支援を行ってきた。引き続き学校司書の導入の検討は必要であるが、学校読書支援員が今年度 1 人増えたことから読書支援のさらなる充実を図ることができる。

学校図書室の施設及び資料整備の充実は、主に教育総務課が図書の予算配当、整備を行っているところである。小学校は支援員により購入後も整備ができていますが、中学校については、整備状況を把握する必要がある。

インターネット利活用教育の指導については、本来情報教育の部分であり、学校教育課、教育センターでそれぞれ指導してきた。今後の課題は、電子書籍という読書の方法について、どのような取り組み方ができるのかを検討する必要がある。

以上が10の施策となる。

広報・啓発活動の推進については、全ての場面において広報・啓発を行ってきた。特に「子どもの読書週間」を中心に展開したいと考えているが、中高生に向けての広報が足りていないため、第二次計画で取り組んでいきたい。

会 長      かしわざき子ども読書プランの位置づけ、一次プランの最終年度である昨年度1年間分の実施内容、一次プランの5か年分の実施内容、評価、課題について説明があった。

内容が多岐にわたるが、最後の説明にあった5か年分の実施内容の資料には、課題がそれぞれ分析してあり、それを踏まえて二次プランに取り組んでいく。意見や質問はいかかか。

委 員      ブックスタートボランティアとして関わる中で、上のお子さんの時はなかったと言って喜んでいる方もいるし、上にお子さんがいなくても家には絵本もないし読んでやったこともないが、下のお子さんの時にこのブックスタートに出会ったという方もいるので、よい機会になっていると感じている。予算は大変だろうが、続けていただきたい。ブックスタートボランティア養成講座の時に、絵本がいかにも良いかというとても良い講演をいただいたのだが、どんな風に読んだらいいかとか絵本のことだけではなくて、現場ではお座りやハイハイなど子どもの成長についての話題が出ることもあるので、0～1歳の子どもの成長等についての講習も補足としてあるといいと感じた。また、保育園や小学校のお子さんには絵本をちゃんと持って読んでほしいが、それまでの赤ちゃんへの読み聞かせのやり方や工夫などを保育園の現役の保育士さんに来ていただいて説明してもらえばイメージも沸いて、ブックスタートの絵本を渡す時に役に立つのではないかと、実技指導を養成講座の時にしていただくとよいと感じた。

会 長      そういう現場の声があればぜひ連絡を取っていただいて充実できるとよい。

事務局      以前、元気館の保育士に小さな子供たちへの対応の指導などができるかを聞いたことがあった。その時は忙しいということで実現できなかったが、今回お話を受け、また内容を検討したい。

委 員      保育士に対する読み聞かせの研修があるとよい。1歳くらいはほとんど言葉を話さないし反応もあまりないが、実はものすごく言葉を聞いている。技術的な話よりも、わかっているかどうかかわからないが、どんどん読み聞かせてよいということを、毎日やっている読み聞かせが時間つぶしではなく、1歳にも読み聞かせは必要だということを、客観的な立場の方から話をしていただくと、背景や意義も理解しやすいと思う。そのうえで読み聞かせるとよいと思うので、1時間でもいいので可能な範囲で実現していただくと嬉しい。

会 長      保育士さん対象ではなくて、小さな子への絵本の読み聞かせ講座の時には、やはりお仕事忙しいから参加は難しいものか。

委 員      年1回でもよいので、保育士対象となっている方がよいのではないかと個人的には思う。職員研修の中でも読み聞かせの講義が毎年あるわけではないので。読み聞かせはどこかの保育園でもすごくやっていると思うが、そこに厚みがほしいと日頃思っている。

事務局      保育課が、子育て支援員の研修会として子育て支援室やファミリーサポートセンター提供会員などへの研修は行っているが、全市内に対してはやっていないと思う。なかなか講

師を選ぶのも難しく、予算との相談にもなるが、また機会があれば検討したい。ぜひ保育士の皆さんには、読み聞かせが大事ということを伝え続けていただければと思う。

会長 他に意見がなければ、次の令和2(2020)年度第二次子ども読書推進計画事業実施計画の説明をお願いしたい。

事務局 資料7を御覧いただきたい。新型コロナウイルスの関係でなかなかうまく進められない年度になってしまうのかなと危惧しているところだが、予定として挙がっているものについて説明する。第二次計画では9つの施策を掲げて取り組んでいる。1「絵本で子育て」の推進について継続、充実させていきます。2「家庭読書(家読)」の普及・定着についても継続し、また新たな取り組みをしていきたい。3児童図書館の整備と利用促進についても継続、4読書ボランティアの養成、研修、照会・仲介及び活用についても継続、5読書関係職員研修の充実についても継続する。6学校図書管理システム導入の研究・検討についても継続です。7学校図書館担当職員(学校司書等)の配置検討と学校読書支援員による巡回支援については継続して充実させます。8学校図書館の施設及び資料整備の充実も継続です。9子ども読書活動の広報・啓発は、いままで10の施策の別に挙げておりましたが、非常に大事ということで施策の一つに挙げている。

子育て支援課では、引き続き絵本の読み聞かせの実施、ソフィアセンターのおはなし会の広報、児童クラブでの図書購入や貸出文庫設置などに取り組んでいく。

保育課でも、子育て支援室等での未就園児への読み聞かせや、図書の購入、絵本イベントや講座の実施、ソフィアセンターおはなし会の広報等を行う。

教育総務課は、小中学校に図書の予算配当を行い、図書の整備を行う。また、学校図書管理システムの導入について検討する。

学校教育課は、朝読書、子ども司書の養成・活用などに取り組み、読書手帳を読書の習慣化につなげるために活用する。

教育センターでは、図書館教育の研修を10月に実施する予定である。

文化・生涯学習課は、キャンペーンポスターを掲示し広報活動をしていく。

図書館は、ブックスタート事業の継続・実施を引き続きやっていくが、現在は、新型コロナウイルスの関係で直接お渡しすることができず郵送となっている。なかなか思うように進んでいない現状ですが、今後の動向を見てイベントや講座、事業を進めていきたい。また、学校読書支援員は1名増員となったので、更なる充実に向けて取り組みたい。

会長 意見や質問がありましたら、お願いしたい。

委員長 学校図書管理システムについては、前々から検討事項に挙がってはいても、なかなか実現までいかないようだが、これはいくらかかるのか、また、有効性が主張できれば予算はつくと思うが、その検証はどこまで進んでいるのかを聞きたい。前任の学校ではすでにシステムが導入されていて、貸出は全てバーコードで管理し、子どもたちが調べたい本があれば検索して調べることができた。学習センターとしては大変有効であり、できれば予算がついて市内の学校に導入されるとよい。

館長 システム導入については、費用は、様々な会社からソフトや機器が出ていて、ソフトと機器を合わせて30万円から100万円ぐらいの幅がある。導入となると小学校20校分、プラス中学校11校分が必要になる。有効性については、人数の多い学校については有効性が出てきますが、人数の少ない学校では費用対効果が少なくなってくる部分がある。また、毎年購入した図書を登録しなければならず、それは先生方の負担になる部分もあり、システムをよく御存じの先生が担当されている時には作業がうまく進んでいても、担当の先生が変わると登録などがうまく進まなくなるという話も聞いている。そういう部分の研究や、学校規模など効果的に利用できるのか研究をもう少し行う必要があり、今はまだ導

入には踏み込めない段階にある。

会 長 一次プランは、学校現場などに配布されたと思うが、二次プランについては、すでに配布されているか。

館 長 関係機関、教育機関、コミュニティセンター等に配布済みである。

会 長 学校では、こういうものは引き継ぎ資料に入っているとは思いますが、新しいものは既に配布済みということでよいか。

館 長 はい。また、他にここにあった方がよいという意見がありましたら聞かせてほしい。

会 長 他になれば、令和 2（2020）年度の実施計画について承認で良いか。

委 員 はい。

会 長 それでは、その他について事務局からお願いする。

## 8 その他

館 長 資料 8 の利用者からの意見・要望は、当館の中に設置している意見箱に入れていただいた意見である。2月の協議会以降のもの 3 件である。（資料 8 の説明）

次に、新型コロナウイルス感染拡大防止対応については、2月 27 日から当館の対応が始まっている。2月 28 日から一部サービスについて、主に行事を休止した。2月 29 日からは学校読書支援員の学校巡回を休止、ブックスタートについても 4 か月児健診が休止となったため本を渡すことができなくなった。4月に入って、一旦は学校読書支援員の学校巡回を再開したが、その後、再度できなくなった。4月 16 日に全国に緊急事態宣言が発令され、18 日から当館も臨時休館になった。5月 11 日から一部サービスに限定して再開し、6月 1 日から利用できるサービスを拡大して、新聞の閲覧、DVD の視聴、参考図書室の利用を除くサービスが利用できるようになった。この状態が現在も続いている状況である。今後、感染の状況により、新聞の閲覧や DVD の視聴なども緩和していきたい。この動きについては、ほぼ市の対策会議の承認を得て対応している。休館中、当館では返却されてきた本全てを職員が消毒液でふき取る作業を行い、それは現在も続けている。さらに、23 日間という長い休館になったため、古い蔵書の見直しや処分、郷土資料の古銭や額、屏風について整理や登録など、普段できないような作業をコツコツと行った。今後の状況により、サービスについては緩和していきたい。新しい生活様式ということで、最低限やらなければならないことは引き続き行っていきたい。利用はできるが制限もあるという不便さはあるが、市民の皆様の協力をいただきながら進めたい。

会 長 以上で議事は終了である。

## 9 閉会

会 長 7 年前にこの協議会に参加させていただいた時には、かしわざき子ども読書プランはまだなかったもので、その策定に加わったわけだが、その時はまだブックスタートもなく、学校読書支援員もいなかった。それが今日のお話では、いつの間にか 5 名配置していただいたということで、本当にうれしく思う。コロナウイルス対応などで大変な中ではあるが、二次のプランに沿って、更なる活動の充実を目指していきたいと思う。本日はありがとうございました。